

学 会 録 事

1. 2018年度第5回持ち回り評議員会

第5回持ち回り評議員会(2018年11月19日～11月30日)を開催し、【議案1】「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、特別賞(2019年3月授与)を大野正夫氏に授与する。」の否を審議した。その結果、国内評議員15名のうち15名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

2. 2018年度第6回持ち回り評議員会

第6回持ち回り評議員会(2018年12月11日～12月25日)を開催し、【議案1】「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会論文賞(英文誌「Phycological Research」)選考実施要領に基づき、第22回日本藻類学会論文賞(2019年3月16日授与)を以下の論文に授与する。

Jayvee Ablaña Saco, Akio Murakami, Satoko Sekida, Ichiro Mine

Chloroplast position and photosynthetic characteristics in two monostromatic species, *Monostroma angicava* and *Protomonostroma undulatum* (Ulvophyceae), having a shared ecological niche (Issue 1, pages: 58-67)」の可否を審議した。その結果、国内評議員15名のうち15名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

3. 水産・海洋科学研究連絡協議会

平成30年度第2回協議会が2018年10月29日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。鈴木秀和会員が出席。

<議題>

1. 平成30年度第1回水産・海洋科学研究連絡協議会議事録案について：資料に基づき説明があり、一部修正して承認した。2. 各学会の情報交換：各学会の活動が紹介された。3. 日本学術会議主催公開シンポジウム「2050年の水産資源を日本の食卓から考える」について：これまでの経緯の説明、高校生の参加の呼びかけについて報告があった。4. 水産工学にかかわる国際会議“International Conference on Fisheries Engineering 2019: Realizing a healthy ecosystem and sustainable use of seas and oceans (略称ICFE2019)”の後援名義依頼について：大竹氏より日本水産工学会が主催する標記国際会議について説明があり、本協議会へ後援名義依頼について議論の結果、後援を承認した。5. その他：(1) マスタープランについて：古谷氏よりマスタープランについて説明があった。今年度について具体的な案を作る予定である。(2) 次回の会議は平成30年5月下旬に開催の予定。

4. 自然史学会連合

2018年度自然史学会連合総会が、2018年12月22日に

東京大学総合研究博物館ミュージズホールで開催された。

<報告事項>

1. 加盟団体の現状：38学協会(動物行動学会が脱退、植物地理・分類学会が日本植物分類学会へ合流)。2. 運営委員会の開催。3. 博物館部会の開催。4. 講演会の開催 講演資料集配布会「海と山岳のきとぎと自然史研究」富山市科学博物館、2018年10月28日。5. ブラジル国立博物館の火災被害に対する声明文。博物館の予算減に基づく人災による自然史資料の消失を繰り返さないために、声明文をとりまとめ連合HPで公開した(11月26日公開)。6. 2019年度講演会 通常講演会は実施せず、ICOM京都大会(2019年9月)サイドイベントとして9月4日午後に京都大学芝罘会館稲盛ホールにて国際シンポジウム「研究活動、資料収集、普及教育、アウトリーチを推進するツールとしての自然史博物館ネットワーク：アジアの事例研究」開催を予定(概要は10月20日に連合HP掲載)。7. 式典への出席。8. 感謝状の発送。9. シンポジウム後援。10. HPの運営。11. 出版物。① 理科好きな子に育つふしぎのお話365」中国本土版の出版。② 理科好きな子に育つふしぎのお話365」ハンディ版の出版準備。12. その他。

<審議事項>

以下の1～5について承認された。1. 2018年度決算案および同監査報告。2. 2019年度事業案・予算案。運営委員会の開催(4回程度)予定、博物館部会の開催(3～4回)予定、講演会の開催(通常の講演会に代わりICOM京都大会期間中に国際シンポジウムを開催予定)、2019年度予算案(講演会に代えて国際シンポジウム開催費を計上)。3. 自然史学会連合共催イベントへの資金補助について(日本生態学会のフォーラム「大学にある自然史標本をどう守るか」の旅費支援)。4. 代表選挙への細則について(運営委員会の原案が了承された)。5. その他：2020年度から通常の講演会を開催予定；沖縄への国立自然史博物館の誘致の協力要請には今後対応を検討。

5. 日本分類学会連合

日本分類学会連合第18回総会が2019年1月12日(土)10:00～12:00に国立科学博物館上野本館講堂で開催された。峯一朗庶務幹事が出席。

<報告事項>

1. 活動報告：(2018年度)生物科学学会連合第17回定例会議出席(3月5日)、ニュースレター31号発行(6月25日)、第38回役員会開催(6月28日)、国立沖縄自然史博物館シンポジウムについてMLにて加盟団体に周知(7月17日)、生物科学学会連合案内パンフレット2018-2019に当連合の

紹介を掲載（8月中旬）、生物科学学会連合 第18回定例会議および生物科学学会連合公開シンポジウム「持続可能な社会を目指して生物科学は何ができるのか」出席（10月1日）、日本学術会議報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」の改訂に関する協力要請；MLにて加盟団体に周知（10月5日）、藤原ナチュラルヒストリーシンポジウム「北海道シンポジウム「恐竜と鳥のはざま」後援（10月4日）、第39回役員会開催（10月29日）、ニュースレター32号発行（11月25日）。（2019年度）第40回役員会開催（1月11日）。2. ニュースレター：第31号、第30号を発行。3. ホームページ：ホームページを維持・アップデートし、ニュースレターおよびシンポジウム情報を公開した。4. データベース：「日本産生物種数調査」と「国内重要コレクション調査」の公開ページの維持管理を行った。5. メーリングリスト：メーリングリスト TAXA の会員数は2017年12月31日時点で「1,107名（2017年末から62名増）」。6. その他：生物科学連合報告、国立沖縄自然史博物館設立について、ABSワーキンググループ。

<審議事項>

以下の1～4について承認された。1. 2018年度決算：決算案（分担金支払状況、決算案（一般会計、特別会計）、会計監査報告）。2. 2019年度事業計画（1）2019年第18回公開シンポジウムの開催（2019年1月12日 13:30～17:05「最近見つかった新種・珍種・新発見」（国立科学博物館上野本館講堂）。（2）2020年 第19回公開シンポジウムの開催

（2020年1月11日（土）午後（国立科学博物館）を予定）。（3）ニュースレター：33号（2019年5月発行予定）、34号（2019年11月発行予定）。（4）ホームページ：例年通りの予定。（5）データベース：2017年度に実施したアンケート結果を叩き台に、現時点で公開されている種名チェックリスト等へのリンクを連合ホームページ上で整備する。「日本産生物種数調査」と「国内重要コレクション調査」の公開ページの維持管理を行う。3. 2019年度予算。一般会計の2019年度分分担金は10,000円、赤字縮小努力を継続する。4. その他：遺伝子情報（DSI）に対してABS適用に関する議論の紹介、植物標本に関する輸入手続きの厳正化に関する対応について（意見交換）。

6. 学会HPによる情報配信と記載内容の更新

2018年10月～12月に掲載・更新した内容は次の通りです：

日本共生生物学会の第2回神戸大会の参加登録

第15回日本藻類学会研究奨励賞の募集案内

第35回沿岸域環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウムおよび全国アマモサミット2018 in 阪南

2018年度藻類談話会のご案内

第23回国際海藻シンポジウム（The 23rd International Seaweed Symposium）の早期申込み期限のお知らせ

「大型藻類培養技術ワークショップ」開催のご案内

訃報

本会会員 木村 光子氏は平成30年12月6日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。日本藻類学会